

## 船舶事故調査報告書

平成30年6月20日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	不明（平成30年2月28日 12時00分ごろ～13時30分ごろの間）
発生場所	鹿児島県奄美市名瀬港 名瀬港西防波堤灯台から真方位260° 390m付近 （概位 北緯28° 23. 9′ 東経129° 29. 8′）
事故の概要	プレジャーボートももなは、係留中、機関室に浸水した。
事故調査の経過	平成30年3月12日、主管調査官（那覇事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート ももな、2. 8トン KG3-228809（漁船登録番号）、株式会社堀陶石 第295-31775号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長、一級小型
負傷者	なし
損傷	主機、航海計器等に濡損
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南、風速 約6. 7～9. 0m/s（最大瞬間 風速 約13. 4～16. 8m/s）、視界 良好 海象：波高 約0. 5～1. 0m、潮汐 低潮時～上げ潮の初期 奄美市には、2月28日12時45分に強風注意報及び波浪注意報 がそれぞれ発表され、本事故時も継続中であった。
事故の経過	<p>本船は、平成30年2月18日名瀬港長浜地区の護岸から東方に延びる棧橋の南側で船首を北方に向け、棧橋と船尾方の海底に設置されたおもりをつないだロープに船首部及び船尾部から係留索を取り、船首部及び船尾部から棧橋に別の係留索を取って係留した。</p> <p>船長は、27日17時30分ごろ機関室を点検した際、機関室内にビルジがないことを確認した。</p> <p>機関整備業会社の担当者（以下「担当者A」という。）は、名瀬港長浜地区で作業中、28日12時00分ごろから南風が強まり、船首を北北西方に向けて右舷船尾方から波を受けて大きく左右に揺れている無人の本船を見たが、船体に異状がないように見えた。</p> <p>担当者Aは、13時30分ごろ本船が右舷側に傾いているように見えたので、本船の船首部に乗ったところ、後部甲板の右舷側に滞留している海水を認め、海水が船体中央寄りの放水口に流れていないのを見て機関室に浸水していると思ったので、機関整備会社に本事故の発生を連絡し、本船を載せるトラックを取りに同社に向かった。</p> <p>船長は、友人から連絡を受け、本事故の発生を知った。</p>

	<p>本船は、その後、船尾部が沈んだ状態であるところを機関整備会社が手配したクレーン車で引き揚げられ、同社に運ばれた。</p> <p>本船は、機関整備会社によって主機が開放された結果、‘船底弁と冷却海水ホースとの接続部のステンレス製のホースバンド’（以下「本件ホースバンド」という。）が劣化して破断していること、及び冷却海水ホースが船底弁から外れていなかったが、密着されていない状態となっていることが判明した。</p> <p>主機の冷却海水は、機関室の左舷側に設けられた船底弁から機付きの海水ポンプで吸引加圧され、清水、潤滑油及び空気の各冷却器を冷却した後、ミキシングエルボを通して船外に排出されるようになっていた。</p> <p>本船は、機関室の船首側隔壁の下端にリンバーホール（ビルジ水を通す穴）2か所が、同隔壁の左舷側に電気配線及び燃料油管を通すパイプがそれぞれ設けられ、それらを通して機関室と操舵室の下部とがつながっていた。</p> <p>船長は、船舶所有者から本船の管理を依頼され、毎月1回程度目視で海水系統のパイプを点検していたが、本件ホースバンドが劣化していたことに気付かなかった。</p> <p>本船は、喫水が、船首約0.3m、船尾約0.8mであり、船尾の乾舷が約0.8mであった。</p>
<p><b>分析</b></p>	<p>本船は、名瀬港長浜地区において無人で係留中、担当者Aが、28日12時00分ごろ船体に異状がない様子を見た後、13時30分ごろ右舷側に傾斜しているのを認めたことから、この間において機関室に浸水したものと考えられる。</p> <p>本船は、本件ホースバンドが劣化して破断し、冷却海水ホースが船底弁に密着されていない状態となり、船底弁と同ホースとの接続部から海水が流入し、機関室に浸水した可能性があると考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、本船が、名瀬港長浜地区において無人で係留中、機関室に浸水したものと考えられる。</p> <p>機関室に浸水したのは、本件ホースバンドが劣化して破断し、冷却海水ホースが船底弁に密着されていない状態となり、船底弁と同ホースとの接続部から海水が流入したことによる可能性があると考えられる。</p>
<p><b>再発防止策</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホースバンド類は、長期間使用すれば、劣化して破損するおそれがあるので、適宜点検を行い、必要に応じて交換すること。</li> </ul>